

2013年度 前期		リフレクションペーパー					
学科名	生物環境化学科／電気通信工学科						
科目名	初等物理学						
科目区分	人間形成科目	単位数	2	開講時期	2・3年前期		
必修・選択の別	選択科目(コースA群)／自由科目(コースB群)						
担当者	中野 吉正						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動方程式を理解し、一次元運動(等加速度運動、単振動)を解く。</li> <li>・運動方程式から力学的エネルギー保存則を導く。</li> <li>・球座標を用いて、天体の運動を解く。</li> <li>・天体の運動からその質量に関する情報を得る。</li> <li>・電磁場の基礎方程式を理解する。</li> </ul>						
日程と内容	4/ 9 導入、成績評価の方法、物理学とは 4/16 関数とその導関数、位置・速度・加速度 4/23 力と運動方程式 4/30 単振動 5/ 7 定積分 5/14 エネルギー保存則 5/21 角運動量保存則 5/28 万有引力、惑星の運動に関するケプラーの法則 6/ 4 衛星の運動と惑星の質量 6/11 電磁気学とは、電場と電位 6/18 電流と磁場 6/25 ローレンツ力 7/ 2 電磁誘導 7/ 9 総合復習 7/16 定期試験 7/23 試験の講評						
成績評価基準	定期試験	60%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題	40%	計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	到達目標のための講義は学期中の授業でおおむねカバーできた。また、学生の達成度はレポートと定期試験で確認することができた。						
反省点	結果的にはもうすこし高度な内容で講義をしてもよかったようである。今年を受講者から判断すると、数学的なあいまいさを減らし、自然現象をより詳しく解説することで、さらに高い目標達成度が得られたはずである。						
来年度の計画	授業内容をすこし高度にするとともに、それに対する理解度を全体的にあげたい。そのためには、演習問題を充実させたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	授業内容に対する理解度があまり高くなかった学生には、日常から身のまわりの自然現象に注意をはらうことを勧めたい。また、学問的な目で観察する態度を涵養するのは、こちらの責任として重く受け止めたい。						
履修登録者数	23名	定期試験受験者数	19名	合格者数	17名	合格率	89%